

環境農政常任委員会委員会調査報告書

令和7年8月19日（火）に、保田漁港において、次の調査事件について調査したところ、その概要は別紙のとおりでした。

【調査事件】

- ・ 農業、林業及び水産業に関する事項について

令和8年1月30日

神奈川県議会議長 長 田 進 治 様

環境農政常任委員会委員長 石 川 巧

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和7年8月19日（火）

(2) 調査箇所

保田漁港（千葉県安房郡鋸南町吉浜 99-5）

(3) 出席委員（計10名）

石川巧委員長、山口美津夫副委員長、
芥川薫、柳下剛、いそもと桂太郎、持田文男、赤野たかし、てらさき雄介、
近藤大輔、青木マキの各委員

(4) 随行者

山崎課長（議会局議事課）、徳永主事（議会局議事課）、
栗原主査（環境農政局総務室）

(5) 行程

県庁～保田漁港～県庁

2 保田漁港

(1) 調査目的

鋸南町保田漁業協同組合では、魚価低迷等により漁港の経営が厳しくなる中、補助用地を町単独用地と交換すること等により漁港用地を有効活用し、地元の魚を活用した魚食普及食堂ばんやをオープンするとともに、温泉宿泊施設や観光定置網等の事業を積極的に展開した。これにより、地元水産物の利用拡大や雇用の増加が図られるなど、地域水産業の活性化に大きく寄与した。

そこで、同組合の取組を聴取することで、今後の海業の推進に係る委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア 環境農政局

尾埜美貴江環境農政局長、井上悌司農水産部長、原日出夫水産課長

イ 保田漁港協同組合及び鋸南町

鋸南町保田漁業協同組合代表理事組合長、
鋸南町議会議長、鋸南町地域振興課長 ほか

(3) 委員長挨拶



(4) 鋸南町議会議長及び鋸南町保田漁業協同組合代表理事組合長挨拶

(5) 漁港視察

(6) 質疑応答

ア 浮き栈橋・係留場所について

質 疑 更新工事は結構あるのか。

応 答 定期的に板を貼って部分的に修復している。

質 疑 係留の料金設定はどのようにしているか。

応 答 鋸南町漁港管理条例の中で1日最大5,000円の指定はしていて、漁協で料金設定をする。

質 疑 台風的时候はどうするか。

応 答 事前にスロープは上げて、奥に土のうを積む。

質 疑 予約制か。

応 答 予約は承っておらず先着順である。

ここの栈橋がいっぱいになったら、中に移動して係留していただく。また、風が強いときも、中の岸壁に沿って係留していただく。

質 疑 料金の支払いはどうするか。

応 答 組合事務所か、ばんやで支払う。

質 疑 浮き栈橋の空いている間は何の意味があるか。

応 答 50 から 60 フィートの大きい船が来るため。
ごくまれに 100 フィートクラスのスーパーヨットが来るが、ここの栈橋には泊められない。

質 疑 大きい船を入れるためにしゅんせつしているのか。

応 答 大きい船は中の岸壁に沿って泊めてもらうため、そのためのしゅんせつはしていない。

質 疑 しゅんせつによるメンテナンスはしているか。

応 答 やっていない。マイナス 3.5 メートルなので、水深は問題ない。

質 疑 このエリアには漁業者はいるか。

応 答 何隻かいる。港は、鋸南町では、北から、保田漁港、第 6 漁港、さらに南に行くと県管理の勝山漁港、町管理の岩井袋漁港がある。水揚げがあるのは、保田漁港と勝山漁港の 2 か所である。

質 疑 マリーナの利用者の住まいはどこら辺が多いか。

応 答 東京、神奈川が多い。

質 疑 船揚げ施設の周りには、遊んだり買い物したりする施設はあるのか。

応 答 今のところそういう施設はなく、マリーナに泊めるだけである。





イ 宿泊施設について

質 疑 部屋数は幾つあるか。

応 答 4部屋ある。

質 疑 ハイシーズンはいつか。

応 答 夏場である。

質 疑 元々は何の施設だったのか。

応 答 元々は福利厚生施設で、組合員のためのお風呂だった。

質 疑 1泊の料金はどのくらいか。

応 答 繁忙期で料金設定が変わる。素泊まりで6,800円、食事付きで10,800円である。



(7) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

ア 鋸南町及び保田漁港の概要

イ 地域水産業活性化のきっかけ

ウ 漁協の取組

(ア) 魚食普及食堂ばんや

(イ) 魚食普及食堂第二ばんや

(ウ) ビジターバース

(エ) 福利厚生施設憩いの家（ばんやの湯）

エ 都市と漁村のふれあい構想

(ア) 魚食普及食堂第三ばんや

(イ) 漁業体験用船舶（定置漁船）

(8) 質疑応答

質 疑 色々な取組を今までやってきたと思うが、今後、新たな取組は考えているか。

応 答 マリーナ事業は収益性が高いと考えている。現在もキャンセル待ちが30から40隻程度ある。

マリーナの右側に船揚げ場があるが、今現在は漁師の方が使っていないため、そこを埋め立てて平地にして、マリーナ自体を広げることを検討している。

質 疑 逗子・葉山では漁師タクシーなどをやっていて、漁師が1人約4,000円でコースを周遊して、大人気である。イベントとセットで行い、小さな刺網漁船を出すものが、大ヒットしている。

保田のほうでもいろいろやられている中で、民業圧迫など、地域との確執はないのか。

応 答 今のところはない。当初から、近隣のマリーナの金額を調べて圧迫しないような価格設定をしている。周りからクレームは来ていない。

近くの道の駅保田小学校を建設するときも、ばんやがあるから魚関係を売らないようにしたり、お互いを圧迫しない形で行っている。

質 疑 神奈川の宮ヶ瀬湖では内水面漁業をやっている。栈橋を作るには1,000万、2,000万円かかるといわれているところだが、あの一般の方が利用する浮き栈橋は、補助金の形態でついているのか。構造物について、かなりの規制等があったのか。

応 答 補助金は一切使っていない。

漁港には漁船しか泊められないルールがあるため、泊められるところを造るためにどうしたらよいか国に協議を行った。

ここは元々天然の水域であったため設計ができた。構造的な話だと、かなり前の話で、図面も残ってないので、はっきりとは分からないが、組合が設計を業者に依頼して造ったものを、町に寄付し、町が指定管理している。

質 疑 お昼でお客さんがいっぱいいたが、大型バスの観光の割合や客層はどうか。また、外国からのお客さんも来るのか。

応 答 団体客は全体の数%程度で、ほとんど個人客である。客層は、50歳以上の方が多く、若年層は夏休み等の長期休みには増えるが普段は少ない。個人のお客さんは東京・埼玉・神奈川の方が多い。

大型バスは5台程度停められる。

外国人観光客は年間1%未満、多い月で20から30名程度である。交通の便がよくないため外国人観光客は来づらいことから、インバウンド向けの対策はしていない。

電車が1時間に1本で2両編成なので、自家用車が必須である。高速バスは東京・千葉・横浜まで出ている。

質 疑 繁忙期・閑散期の対策はどうか。

応 答 閑散期には、ばんやでイベントを行っている。9月辺りからお客さんが減少するため、呼び込む対策を取っている。逆に、8月の繁忙期にイベントを行うと受け入れきれないので、時期を見てイベントを開催するようにしている。

冬が閑散期であり、週でいうと火曜日が少ない。

パート職員はシフトを組んで、平等に稼げるようにしている。9月から12月にかけては閑散期のため、シフトを減らして調整している。

質 疑 農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律が制定された結果、定住率は上がったのか。

応 答 町自体の人口が減っていて、なかなか上がっていない。

ほとんど農地のため、宅地として住む場所がないという問題もある。令和元年の台風で住宅に被害があり、そのために出ていった方もいたり、場所によっては家が建てられない区域に設定されている地域もある。

町では、町を知ってもらう・来てもらう交流人口から、定住人口への取組の中で、近年、空き家バンク、移住定住政策、町から通勤する際の補助など、様々な施策を取り入れて、人口減少に歯止めをかけようとしている。

そのかいもあって、少子高齢化で自然増減はマイナスだが、社会増減は令和5年度ではゼロを達成している。今後も取組を拡大していきたい。

質 疑 周辺の観光資源はほかにあるか。また、回遊性はあるか。

応 答 道の駅保田小学校、富津との間に鋸山がある。富津市と共同して日本遺産の申請をしており、候補地域にはなっている。

数ある観光資源が幾つかある中で、今まではそれらを生かし切れていなかったが、いかに回遊性を高めて鋸南町に滞在していただくかという観点から、回遊性を高める施策を検討している。



(9) 副委員長挨拶



(10) 調査結果

○ 魚食普及食堂ばんやは、補助金を使わずに鋸南町保田漁業協同組合の単独事業として、当初は建設工事用のコンテナ2棟で食堂をオープンしたが、売上・利用者の増加に伴い、千葉県の東京湾総合対策事業（特認事業）として魚食普及食堂第二ばんやを建設するとともに、プレジャーボートのビジター受入体制の整備などを行った結果、次のような効果があったとのことであった。

- ・ 漁業協同組合も漁獲物の入札に参加することで魚価の安定を図った。
- ・ 調理することで漁獲物に付加価値がついた。
- ・ 低未利用魚を数量限定で販売することで無駄なく資源を活用できた。

- ・ 魚以外の食材を地元で買い付けることで地元経済が潤った。
 - ・ 地元の雇用が創出された。
- 漁業協同組合が作成した都市と漁村のふれあい構想においては、海洋レクリエーション等漁業以外の事業を取り入れ、その実践として、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用し、魚食普及食堂第三ばんやを建設するとともに、漁業体験用船舶（定置漁船）を新造したとのことであった。
- かながわの海業の調査の一環として、県庁付近（ピア象の鼻棧橋）から調査地への往復の移動を船舶によって実施し、現地の浮き棧橋の視察等、海上交通の視点から、海業の推進について調査を行った。

これら鋸南町保田漁業協同組合における海業に関する取組を調査したことにより、本県の海業の推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。